

キリストの聖体

ヨハネ 6・51-58

高円寺教会 2017.6.17 18:30 ミサ
うめざき たかいち
クラレチアン宣教会 梅崎 隆一神父

今日の福音では、イエスの体と血を食べることが議論になっている。今ではそのようなことは問題になっておらず、食べることは当たり前のことだと思っている。しかし、今の教会共同体の中の問題は、ご聖体を受けた人から、ご聖体を受けたことを感じられないところにあります。

例えば、典礼において主導権を手に入れたオルガニストがミサ終了後、「神父さんがマイクのスイッチを切らずに歌うと神父さんの間違っただけに会衆がついていくから、オルガンが無視されてしまう。これからは神父さんはスイッチを切って歌ってください」と駆け引きを始める。神父様が同じくミサ終了後、歌を歌うのが苦手であるにも関わらず一生懸命歌った方に「もうあなたは歌わないでください」と心ない事を言ったりする。ミサ中に泣き出した赤ちゃんを抱えたお母さんをミサ中に女性信徒が追い出したりなど。これに類することがない教会には、今までにまだ一度も派遣されたことがありません。キリストのことばをミサの中で聞いて、パンを食べても、わたしを含めほとんどの人がミサの前とミサの後では全然何も変わってない。

高円寺教会のミサにお越しくださる澤田神父様がお書きになった『キリストの建設』という本の中に、第二バチカン公会議を経た教会は、ご聖体についてすら「人はパンのために生きるのではない」、ということばを見つけて衝撃を受けたことがあります。「人はパンのために生きるのではない」のパンにご聖体も含まれているということになるのですから。

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」(マタイ 4・4)と言われている。だから、今日の福音のポイントは、論争の内容そのものよりも、神様のことばを聞いてそれを受け入れるのか受け入れないのかであると思います。そして、それが今の教会共同体に問われていることでもあります。キリストの体を受けたわたしたちも、神のことばを聞き、それを受け入れるのか否かでキリストの体として生きるのか、そうでないのかが決まります。

幼稚園の先生が、聖書の分かち合いをしたあとに、園長先生にこんな話をしてくださったそうです。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』ということばを聞いて、わたしはお母さんとして

子どもにパンをあげることはできるけれども、それ以上のことはできない。だから、これからはわたしが子どもに指図するのはもうやめて、子どもの自主性を大切にしたい」と言われたそうです。

こうして人は神様のことばを聴き、自分自身の我を捨てて、キリストのことばに従うことによって、聖霊が宿る生きた神殿となっていくます。キリストのパンを受けたわたしたちも、キリストのことばに従うことによって、わたしたちが受けたパンがキリストの体であることを、いのちのことばを語ることによって証しすることができますように、共に祈りましょう。